

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 25

事務事業の名称	校舎空調設備改修事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 教育総務課	
実施期間	平成 13 年度 ~		電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5636	
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	校舎空調設備改修事業	
	2節	次世代教育の充実			
	2項	教育環境の充実	個別計画等の名称		
	2目	教育施設の充実			
実施根拠	防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律				
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務				
事業開始の背景等	小学校の校舎の空調については、従来より温度保持工事を実施し、暖房機能は備わっていたが、夏季における学習環境の改善を図るために、既存の老朽化した空調設備を更新するにあたり、新たに冷房機能を加えて、除湿温度保持(冷暖房)工事を実施してきている。				

2 事務事業の目的・内容

目的	新たに冷房機能を加えた形で校舎の除湿温度保持(冷暖房)工事を実施し、夏季における学習環境の改善を図る。	
対象	小中学校の校舎	
活動内容	既存の老朽化した空調設備を更新するにあたり、新たに冷房機能を加えて、除湿温度保持(冷暖房)工事を実施している。	
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続
環境配慮	燃料をクリーンエネルギー仕様の設備へと更新を図る。	
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()	

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(実施動向指標)	空調設備改修工事実施学校数	目標値	校	2	2	2	2	毎年2校ずつ実施する
		実績値		2	2	1		
		達成率		100.0%	100.0%	50.0%		
		達成率						
(成果指標)	空調設備改修率	目標値	校	27	27	26	25	小中学校25校に空調設備(冷暖房)を整備する
		実績値		13	14	15		
		達成率		48.1%	51.9%	57.7%		
		達成率						

4 事業費

区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度		
	千円	302,500	527,800	192,004	190,846		
経費	直接費	千円	263,369	456,745	165,553	/	
	財源内訳	国県支出金	千円	169,618	263,035		93,348
		その他特定財源	千円		180,000		36,000
		一般財源	千円	93,751	13,710		36,205
		人件費	人	0.60	0.70		0.70
	人件費	千円	5,504	6,437	6,294		
事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	268,873	463,182	171,847			
効率性指標	指標名	空調設備改修の校数	校	2	2	1	※1単位当たりの経費
	単位コスト	1校当りの経費	千円	134,437	231,591	171,847	

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	5 前年度	夏季の学習環境の改善を図る上で、校舎の冷暖房機能の確保の必要性は高く、児童生徒と保護者からのニーズも高い。
	有効性	4 前年度	除湿温度保持(冷暖房)工事の実施により、快適な学習環境の確保が図られた。平成22年度末において冷暖房機能を備えた空調設備の改修は26校中15校が完了している。
	効率性	4 前年度	除湿温度保持工事(冷暖房)により、集中暖房から個別空調に改修することにより、未使用室の運転制御につながり、燃料費の節減を図った。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
市民や議会からの要望を踏まえ、改修の件数を年2校とし、残り10校の早期完了に向けて改修を推進する。			

6 その他(学識経験者の意見等)

立教大学・環境教育センターの阿部治氏は、人類滅亡の時期が2030年である可能性を指摘していた。温暖化を否定する向きもあるが、猛暑日が続く夏は、今後とも継続するだろう。もはや、冷房は必需品になっている事だけを指摘します。